



令和4年度

## 連続講座「武士と和歌」

命がけの戦乱の世に生きた武士たちにとって和歌はどのようなものだったのだろうか。「郡上東氏800年・古今伝授550年祭」2年目の連続講座では、「武士と和歌」と題して、2回の講座を開催します。

第1回目は、郡上かるた「和歌で還った篠脇城」でおなじみの、とうのつねより 東常縁とさいとうみょうちん 斎藤妙椿の和歌10首の逸話がテーマです。「応仁・文明の乱」の最中に起きた、和歌10首の逸話のあらすじを振り返るとともに、10首の和歌のかんたんな解釈を教えてください。また、和歌10首のエピソードが成立した当時の社会の価値観なども学びます。

第2回目は、大河ドラマで注目を集めている鎌倉時代初期に遡ります。この頃に活躍した東氏は、3代目で郡上東氏初代となるとうのたねゆき 東胤行です。東胤行は、きんかい 『金槐和歌集』を編んだ3代将軍源実朝や5代将軍宗尊親王らと和歌を通じた交流がありました。平氏に続き本格的な武家政権を樹立した鎌倉幕府の草創期における、将軍や幕府権力と和歌の関係性から、武士にとっての和歌の価値を学びます。

## 第1回

## 「和歌10首の“物語”」

たけしま かずき  
竹島一希氏


6月18日(土)

13:30  
～15:15 頃

京都府立大学文学部准教授。  
1978年、熊本県生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。熊本大学大学院社会文化科学研究科准教授、同大学院人文社会科学研究部(文)准教授を経て、2019年度より現職。第20回柿衛賞(2011年)他。2016年より古今伝授の里フィールドミュージアム学術アドバイザー。令和3年度に開催した郡上東氏800年・古今伝授550年祭連続講座や記念講演会「中世の武士と和歌」講師。

## 第2回

## 「武士はなぜ和歌を詠んだのか」

おがわ たけお  
小川剛生氏


11月3日(祝)

13:30  
～15:15 頃

慶應義塾大学文学部教授。  
1971年東京都生まれ。慶應義塾大学文学部卒業、同大学院文学研究科博士課程中退。博士(文学)。熊本大学・国文学研究資料館を経て現職。著書に『二条良基』(吉川弘文館人物叢書、2020年)、『中世和歌史の研究 撰歌と歌人社会』(塙書房、2017年)、『兼好法師 徒然草に記されなかった真実』(中公新書、2017年)、『武士はなぜ歌を詠むか 鎌倉将軍から戦国大名まで』(角川選書、2016年)ほか。

- 定員 各回50名程度 (先着順)
- 会場 古今伝授の里フィールドミュージアム 短歌の里交流館よぶこどり
- 参加希望の方は、①お名前、②郵便番号、③ご住所、④連絡先電話番号(できれば携帯電話)を、古今伝授の里フィールドミュージアムまで電話(0575-88-3244)・FAX(0575-88-4692)・メール(kokin@city.gujo.lg.jp)・ハガキのいずれかでお伝えください。複数人で申し込まれる場合は全員分の①～④をお知らせください。定員に達し次第、締め切ります。

参加無料

※ 参加にあたってはマスク着用・手指衛生・検温等による体調管理・感染リスクが高い行動を控えたうえで参加する・体調不良時を控えるなどの新型コロナウイルス感染防止対策にご協力ください。また、感染症の状況によっては、急きよ、中止または延期することがあります。申込者にはこちらから連絡します。



## 古今伝授の里フィールドミュージアム

〒501-4608 岐阜県郡上市大和町牧912番地1 TEL 0575-88-3244 FAX 0575-88-4692

メール kokin@city.gujo.lg.jp(表題に「連続講座」の旨をご記入ください)

休館日=毎週火曜・火曜が祝日の場合は翌平日/年末年始 開館時間=9:00~17:00(冬季10:00~16:00)

※ この事業は令和4年度に岐阜県清流の国ぎふ推進補助金を受けています 郡上市